
心臓と血液

シャー芯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心臓と血液

【Nコード】

N8657I

【作者名】

シャー芯

【あらすじ】

ふたつでひとつの音が鳴る。

身体の中の魚。

泳いで、うねり、消えて、生まれる。
誰も見れないはずだろう。

もやのかかった硝子窓。

流される、ひとつ、うねり、流される。
そこから見えたモノ忘れない。

切り開かないで、
僕に形なんてありませんから。

あなたは眠りに尽きません。
ずっと、ずっと、ずっと、働きます。
幾十年、その後は休みましょうかね。

あなたが止まったら僕は此処にいるだけ。
知らなかった、ずっと、あなたの音と一緒にだった。
だから、独りがこんなに静かだったとは。

燃やしてください。

一滴残らず、空に消えうせましょう。

心は人に残りましょう。

君は苦しいのでしょうか、かなしいのでしょうか。
血は人に残りましょうか？

その鼓動、響き渡るのは、

「あなた様のおかげです」

忘れないで、忘れないで下さいね？

ただ、感謝してます。

ありがとうございます、何年も、ありがとうございます。

君の音が、ゆっくり空耳で聞こえる。

とん、とん、とん。

それに合わせて、うねり、泳ぐ。

僕、醜いのでしょうか。

綺麗な赤のはず、なのに、黒くて冷たいの。
もう、泳げない。

凍て付く、消える、火葬。

赤い海はさよなら、僕、空へ泳ぐ。

青い空、ねずみ色の雲。

長い、遠い、燃えてゆく。

僕、灰だけど、空に少し腰掛ける。

幾十年、お世話様。

とん、とん、とん……。

薄明かり影へ旅立ちました。

君は夢を見れたかな。

僕、硝子窓の外へ。

あの時みた、青の欠片。

「……のおかげです」

空耳で聞こえる二つの鼓動。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8657i/>

心臓と血液

2011年1月16日08時15分発行